第１学年　国語科学習指導案

１　単元名

「ことばを見つけよう」

２　単元の目標

・文の中に隠れた言葉を補いながら言葉遊びの文を読んだり、意味を考えながら言葉遊びの文をつくったりすることができる。（書く能力）
・文を組み合わせると意味のある言葉になることに気づくことができる。（知識・理解・技能）

３　単元計画

時	1	2	3（本時）
ねらい	文の中の言葉を見つけながら、言葉遊びの文を読むことができる。	言葉遊びを通して、文字を組み合わせると意味のある言葉になることに気づくことができる。	意味を考えながら、言葉遊びの文を話したり、聞いたりすることができる。
学習内容	『ことばをみつけよう』の文を読みながら隠れている言葉を見つける。	「～のなかには、～がある（いる）。」の文を作る。	言葉遊びクイズを考えて、クイズを出したり、答えたりする。
ICT	・デジタルコンテンツの活用（学び支援機能）		・デジタルコンテンツの活用（学び支援機能） ・ロイロノートの活用

４　「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

（１）指導内容の「系統性」

本単元は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に区分される内容である。第１学年では、自分の経験を基に話題に沿って話したり、濁音のある平仮名を書いたり、言葉遊びをしたりした。第２学年では、季節に関わる言葉を探し経験と結びつけて文章に表したり、うれしい気持ちにさせる言葉の働きに気付いたりして、言葉の特徴やきまりについて学習する。

第３，４学年では、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことや日常で使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読んだり、書いたりできるようする。

第５，６学年では、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことや学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、使ったりすることができるようにする。

中学校では、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くことや事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつようにする。

９年間を見通した課題解決的な学習を設定し、計画的に学習を進めることで、語句の数を増やすだけではなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やす。また、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する理解を深め、自分の語彙を量と質の両面から充実させ、語彙を豊かにしていく。

（２）指導法の「連続性」

①つまずきと指導の工夫

（１）語彙が少なく、自分で問題作りのための言葉を見つけられない
意欲的に言葉の中に隠れた言葉を見つけ、自分で問題作りができた達成感を感じさせるために、使えそうな言葉を幾つか集めたヒントカードを用意する等の工夫をする。
（２）「いる」・「ある」の使い分けを言葉だけでは理解できない
ICT を活用して絵を映し出し、文章を視覚的にイメージして捉え、人や動物は「いる」、物は「ある」という言葉の使い分けを理解できるようにする。

②身に付けさせておく内容・学びのつながり

（１）言葉の意味を考えながら、文を読んだり書いたりできるようにすること
絵などを取り入れて言葉の意味を１つ１つ視覚的に押さえた上で、授業や家庭学習で音読を繰り返し行い、言葉をまとまりで読むことを練習する。また、学んだ言葉を文章の中で書く練習をする。
（２）文字を組み合わせることで言葉ができることや、１文字違うだけで別の意味の言葉になることを理解できるようにすること
１つの言葉に別の言葉が隠れている言葉の学習を通して、文字を組み合わせることで言葉ができていることに気付かせる。

５　本時（３時間扱いの３時間目）

（１）　本時のねらい

ことば見つけクイズを通して、言葉の中に隠れた言葉に気づきながら言葉遊びの文を読むことができる。

（２）ＩＣＴ活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い直す
学習活動	課題を発見する	既習の知識･技能を活用する 自分の考えを形成する	よさを共有する 考えを比較する	振り返って 次へつなげる。
タブレットＰＣ				

（３）展開

学習内容・活動	・指導のポイント　★評価
1　本時の学習の流れ、めあての確認をする。	・学習の流れを提示し、見通しをもたせる。 ・前時で学習したワークシートを用いて、前時の学習内容を振り返ることができるようにする。
ロイロノートをつかって、ことば見つけクイズをしよう。	
2　タブレット PC・ロイロノートの使い方を確認する。 ・既習事項の確認を行う。	・タブレット PC・ロイロノートの起動・操作方法を確認する。 ・タブレット PC を活用し、学習課題への興味・関心を高められるようにする。
3　前時のワークシートをもとにクイズを作成する。	・作成したワークシートをもとに、発表用のクイズを作成させる。 ・発問の話型を用意して、それに沿って発表できるようにする。
4　共有する。 ・隣の友達とペアで作成したクイズを出し合う。 ・学級全体で作成したクイズを出し合う。	・タブレット PC を活用しながら共有を行うことで、分かりやすくクイズを共有できるようにする。 ★タブレット PC を活用し、クイズを発表している。【行動観察・発表】
5　学習の振り返りをする。	・本時の発表について振り返らせる。＜問い直し＞ ・発表を聞いてよかったことや、わかったことを発表し振り返らせる。 ・タブレット PC の使い方を確認して、正しく片付けを行えるようにする。
6　片付けをする。	

第８学年　国語科学習指導案

１　単元名

「本の世界を広げよう」

２　単元計画

<table>
<tr><td>時間</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5（本時）</td><td>6</td><td>7</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="4">思考を形成する過程</td><td colspan="3">思考の形成・言語活動</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学習
内容</td><td colspan="4">○学習の見通しをもち、自分の考えを形成する。</td><td colspan="3">○書評を通して自分の考えを広げて深める。</td></tr>
<tr><td colspan="2">○「ビブリオバトル」について知る。
○学習課題の設定をする。
○自分の考えをもつ。</td><td colspan="2">○情報を収集･整理する。
○ディスカッションの内容をまとめ、自分の考えをもつ。</td><td colspan="3">○発表者を通して、語彙を増やし語感を磨く。
○ディスカッションを通して、自分の考えをもつ。
○振り返りを行い、書評の仕方を再構築する。</td></tr>
<tr><td>ＩＣＴ</td><td colspan="2">・デジタル教科書
・タブレットＰＣ
（ロイロノート）
 </td><td colspan="4">・デジタル教科書
・タブレットＰＣ
（ロイロノート）
 </td><td>・振り返り</td></tr>
</table>

３　「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

（１）指導内容の「系統性」

第１・２学年	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く。(話・聞エ) 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。(話・聞オ)
第３・４学年	話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。(話・聞エ) 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。(話・聞オ)
第５・６学年	話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。(話・聞エ) 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。(話・聞オ)
第７・８・９学年	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。(話・聞エ) 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。(話・聞オ) 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話す。(話・聞ウ)

（２）指導法の「連続性」

①昨年度は、本校の児童生徒に９年間を通して身に付けさせたい力として、資料に基づき、自分の考えをもつと考え、その育成を重点的に研究した。第３学年と第８学年の実践をもとに、資料を読み取り、自分の考えを形成する過程を、ICT を用いて可視化することができた。

②中学部での第７学年の読書活動は、「これまでに読んだ本の中から友達に紹介したい一冊を決め、印象に残った部分を引用しながら、さまざまな方法で紹介しよう」である。第８学年では、「薦めたい本を一人一冊選び、読書案内を作ろう。その本の情報を図書館やインターネットなどを使って集め、まとめよう」である。また第９学年では、「本との関わり方を振り返り、今後読んでみたい本についてまとめ、自分のこれからの読書生活をデザインしていこう」である。研究授業では、第７学年の「さまざまな方法で紹介しよう」と８学年の「その本の情報を図書館やインターネットなどを使って集め、まとめよう」の連続性において、「ビブリオバトル」の方法を取り上げることと、それを第９学年の「読書生活をデザインしていこう」につなげていく。

③授業ではICT活用として、タブレットPCによるロイロノートを試みさせた。これについては、「中学校学習指導要領解説『国語編』」に「目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。(話・聞ウ)」というのがある。小学部でも総合の時間などに、タブレット PC によるロイロノートは既習している。そういう意味でICT活用を指導法の「連続性」に位置づけた。

４　本時（７時間扱いの５時間目）

（１） ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い直す
学習活動	興味関心を高める 見通しをもつ	考えを形成する	考えを広げる 考えを深める	
タブレットＰＣ				

（２） 展開

学習内容・活動	・指導のポイント　★評価
１　学習内容の確認 ・既習事項の確認をする。 ・本時の学習内容を知り、見通しをもつ。	・前時までの復習をし、学習の見通しをもたせる。
質問や助言を生かして自分の発表を見直そう。	
２　３～４人の小グループに分けて、タブレット PC を活用し、ビブリオバトルのリハーサルを行う。 ３　３～４人組で、ディスカッションを行う。	・タブレットＰＣを活用して、各自準備した資料から発表を行わせる。 ・聞き手は、推薦する理由が伝わるかを確認しながら話を聞くようにさせる。 ・質問を想定させる。 ・ディスカッションを通して、改善する点やよりよくするために必要なところを小グループで話し合わせる。
４　グループごとに話し合いを行う。 ○班で推薦する理由が上手く伝わるかという観点に基づき、話し合う。 ・資料の適性や妥当性 ・予想される質問や意見　　　など	<問い直し> ・質問や助言を踏まえ、書評の仕方を再構築できるようにする。
５　学習の振り返り ・自分の発表や小グループの発表について振り返る。	★相手の考えを尊重して聞き、効果的な質問や助言について、自分の考えをもっているか。【学習シート】 ★効果的な資料や内容になるように再考したり、新たな考えをもったりしているか。【学習シート】
６　学習のまとめ ・次時の予告をする。	・次回の発表に対して見通しをもたせる。